**数値で見る秩父地域の特性**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　目 | ちちぶし秩父市 | よこぜまち横瀬町 | みなのまち皆野町 | おがのまち小鹿野町 | ながとろまち長瀞町 | 埼玉県 | 備　考 |
| 面　積（k㎡）  | 577,69 | 49,35 | 63,31 | 171,45 | 30,40 | 3,798,08 |  |
| 人口（人） | 66,312 | 8,838 | 10,522 | 12,877 | 7,651 | 7,235,651 | H26、8,1現在 |
| 世帯数（戸） | 26,356 | 3,338 | 3,988 | 4,869 | 2,891 | 2,936,924 | H26、8,1現在 |
| 高齢化率（%） | 27,7 | 26,5 | 29,8 | 29,8 | 30,8 | 21,7 | H25、1,1現在 |
| 高齢者世帯の割合（％） | 50,4 | 49,4 | 54,5 | 56,0 | 56,2 | 34,3 | H22現在 |
| 合計特殊出生率（％） | 1,47 | 1,44 | 1,29 | 1,14 | 0,89 | 1,29 | H24現在 |
| 年少人口割合（％） | 12,3 | 12,8 | 11,6 | 11,7 | 11,1 | 13,2 | H25、1,1現在 |
| 生産年齢人口割合（％） | 59,9 | 60,8 | 58,6 | 58,5 | 58,1 | 65,1 | H25、1,1現在 |
| 社会増減率 | △6,28 | △0,80 | △7,08 | △10,09 | △2,12 | 2,07 | H25、10,1現在 |
| 自然増減率 | △5,7 | △8,2 | △7,2 | △8,3 | △13,1 | △0,3 | H24現在 |
| 平均年齢（歳） | 47,6 | 47,2 | 49,3 | 49,4 | 49,6 | 44,1 | H25、1,1現在 |

【秩父市】

　　秩父市は平成17年4月1日、旧秩父市、吉田町、大滝村、荒川村の合併により誕生しました。

埼玉県の北西部にあり、面積は５７７．６９平方キロメートルで、埼玉県全体の約１５％を

　占め、周囲に山岳丘陵を眺める盆地を形成しています。市域の８７％は森林で、自然環境に恵まれた地域です。また、市の中央を流れる荒川によって市の中心部は東西に区分され、東部の平坦部分は市街地を形成し、商店街、住宅地などが集中しています。西武丘陵地にある平坦地は、水田などの農業用地が多くなっています。

　　気候はおおむね温暖ですが、盆地であるため寒暖の差が大きく、山地では夏季に雷雨が多く発生し、降水量も多く、山岳地方では冬季にはかなりの積雪となります。

　　古くからの歴史に背景として、日本三大曳山祭りとして有名な秩父夜祭をはじめ、農民ロケットと知られている吉田の龍勢、山岳信仰の三峰神社、荒川白久の串人形など数多くの有形無形文化財と伝統文化が継承されています。

　　秩父市の人口は、昭和55年には78,395人でしたが、平成20年には71,091人となっています。一方で世帯数は増加傾向にあり、昭和55年は21,325戸でしたが、平成20年は26,315戸

　となっており、核家族化が進んでいることがわかります。年齢階層別の人口は、平成20年時点

　で65歳以上の老年人口が全体の25.6％、15歳未満の年少人口はその約半数の13.5％に留まっています。また、生産年齢人口は、全体の60.9％をしめていますが、年々減少傾向にあります。

　　秩父市の行った将来人口推計によれば、当市の人口は平成25年には67、616人になり平成20年と比較して5.1％減少すると予測されます。内訳を見ると、平成20年人口より15歳未満では16.7％、生産年齢人口は6.8％減少しています。さらに高齢者人口（65歳以上）の総人口の占める割合（高齢化率）は27.9％に達し、超高齢化社会が到来すると予想されています。

　　今年2月14~15日には、記録的な大雪が降り、災害対策本部、災害ボランティアセンターが

　設置されました。

【横瀬町（よこぜまち）】

　　横瀬町は、埼玉県の西部、秩父地域の東部にあって都心から70㎞圏内に位置し、面積49.49

　㎢の町です。町域は、東西8.2㎞、南北9㎞で、東から南にかけては、比企郡ときがわ町と飯能

　市に、西北部は秩父市に隣接しています。

　　周囲は、武甲山を南に仰ぎ、東南から東方にかけて武川岳、二子山、丸山など海抜800ｍ前後

　の奥武蔵高原を形成する一方、秩父市境との西方は比較的低い丘陵が北方まで走り、四方を丘陵山岳で囲まれています。

　　河川は、正丸峠から発した横瀬川が芦ヶ久保地内を西に流れ、小河川を合わせて横瀬地区平坦

　部を北に迂回し、秩父市を流れる荒川に合流しています。また、気候は、山地に囲まれた盆地で

　あるため、寒暖の差が比較的大きいものの、四季を通じて穏やかなものとなっています。

　　主要道路及び鉄道は、一般国道299号と西武鉄道西武秩父線が東西に走っており、鉄道には、

　横瀬駅、芦ヶ久保駅の２つの駅が設置され、首都圏への通勤や通学の足として、また、秩父地域の東の玄関口として重要な役割を果たしています。

　　姿地区や川東地区を中心とする平坦地は、近年、急速に宅地化が進んでいます。

【皆野町（みなのまち）】

　　皆野町は、埼玉県の西北、秩父郡の東北に位置し、東は長瀞町と東秩父村に、北は本庄市と神川町に、南と西は秩父市にそれぞれ接しています。

　　標高は町の中心街で海抜160ｍ、町の面積は63.61㎢でその大部分は林野でしめられています。中央の部分にある約25％の平坦地が町の中心を形成し、500~1,000ｍ余りの山々に囲まれています。

　　町の中央には国道140号と秩父鉄道が走り、また、国道140号皆野寄居バイパスや県道10路

　線とともに秩父地域の交通の要所となっています。都心からは80㎞の圏域にあり、鉄道利用で

　さいたま市へ約1時間40分、東京へ約2時間で連絡しています。

　　本町の人口は昭和40年以降減少傾向にあり、昭和40年（国勢調査）の13,570人に対し、平成17年（国勢調査）は11,518人で、40年間に2,052人減少しています。この間、持ち家住宅制度の取り組みなどにより、平成7年（国勢調査）には、12,602人と人口増がありましたが、平成17年には減少に転じております。この人口の減少は、若年歳層を中心とした流失や出生児

　数の減少が大きな要因となっています。

　　世帯数は昭和40年から平成17年の間に1.35倍に増えており、今後も各家族化が続くものと考えられます。

【小鹿野町（おがのまち）】

　　小鹿野町は、平成17年10月1日に、旧小鹿野町と両神村が合併して誕生しました。

　　埼玉県の西北部に位置し、県内の町村では面積が171.45㎢と、最も広い町域を有し、広大な

　山岳地域を抱えています

　　気象条件は、年間を通じて寒暖の差が著しい地域です。

　　また、小鹿野町は、町立小鹿野病院を核とした保健・医療・福祉が一体となった地域包括ケアシステムを推進し、すでに県下においても優れた取組みの成果が高く評価されています。

【長瀞町（ながとろまち）】

　　長瀞町は、埼玉県の西北部、秩父山系の入口に位置し、町の中央を縦貫して流れる荒川の両岸に細長く開けた町です。

　　町土の総面積は30.40㎢で、その大半が山々に囲まれ、これらの山を源とする河川は、それぞれ荒川に流入しています。

　　町は自然に恵まれ、全域が県立長瀞玉淀自然公園区域にあります。また、地質学上も重要な地域であり、特に上長瀞から高砂橋に至る荒川流域は国の名勝及び天然記念物に指定されており

　年間210万人以上の人が訪れる観光の町です。